

SQUARE



No. 101

習志野市国際交流協会会報
スクウェア 第101号
2013(平成25)年4月1日

発行 習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼 5-12-12
サンロード津田沼 6F 〒275-0016
Tel&Fax 047-452-2650
http://www.nia08.com/
(Email)niasquare@m.jennet.jp

主な内容 CONTENTS

- ドミノ倒しを開催”融和の心”共有しました——NI-Youth
- 世界の家庭料理 第46回「インド料理」が開催されました
- 2013 タスカルーサ訪問記 by 小川翔平(NI-Youth)
- 銚子バスツアーが開催されました

report

ドミノ倒しで”融和の心”共有しました ——NI-Youth

NI-Youth 主催の国際交流企画『みんなでドミノ2』が2013年2月2日(土)に開催されました。

この日は、多数の外国人を含む約35人の参加でドミノ倒しを行いました。デザインは全員で考えた“笑顔の描かれた地球に向かって各大陸から喜びを表したドミノが一斉に押し寄せる”というものです。参加者は和気あいの雰囲気の中、時間ぎりぎりまで一生懸命にドミノを並べていました。最後のドミノ倒しの際は上手く倒れてくれない箇所も多少ありましたが、全てが倒れ終わった時には自然と拍手が起こり、参加者それぞれ最高の笑顔を見せていました。終了後“融和”を味わえたという声もあり、有意義な会になりました。

今回の『みんなでドミノ2』は、昨年11月に行われた『習志野 cafe』から、今年1月に行われた『みんなでドミノ1』と続いた【融和企画】の最終企画です。

【融和企画】とは、昨年、尖閣諸島・竹島の問題をNEWSで見たNI-Youthメンバーが、これらの問題について行動できることはないか、と考えた末に発案された企画です。それが目指すものは、これからの世界を創っていく世界各地の若者が“融和の心”を学びお互いに歩み寄り理解し合うことで、それぞれの属する国やコミュニティへ良い影響を及ぼしていき、世界の領土問題や紛争を抑制していく一助となる、というものです。



「わたしの僕の海外経験談」に参加しました

今井洋子

「わたしの僕の海外経験談」が3月9日に開かれました。参加者は18名で、近々に留学する学生や、海外で長期滞在予定の人、子供が今年海外留学するのでその情報が欲しい母親、高校を卒業する人、大学でこの春から学ぶ人達などでした。会を主

催したのはNI-Youth前代表の小川翔平さんです。彼はこの春、大学を卒業し、ホテルマンとして社会人になりますが、最後の冬休みをアメリカ、ドイツ等を訪問してきました。3月8日に報告会が開かれましたが、この日はそれを更に発展させて、集まった青年たちが各自の海外体験を発表し共有する集まりとなりました。自己紹介に始まり昼食後は席を移動しての交換会が続きました。全員がかなりの興味を持ってこの会に臨んでいるのを感じました。

2時間は忽ち過ぎ、終了後彼らは更に2次会を決め次の会場へと移動して行きました。

困難を覚悟して海外で学ぶ若い人達が減少している傾向を私は残念に思っています。若者が海外に出て、国際的感覚を養い、異文化を理解し、外国語にも強くなることは彼等の未来をより豊かにするのではないのでしょうか。小川翔平さんのこの度の海外体験やこの日の集まりは参加した若者達にいいヒントやきっかけを与えたと思いました。

8年ぶりホストファミリーと再会。 なんとテレビに飛び入り出演も！

2013 タスカルーサ訪問記

by 小川翔平(NI-Youth)

学生生活最後の旅として1月28日から2月14日まで、オランダ・ドイツ・アメリカ（ニューヨーク、アラバマ）を旅行しました。その中から、今回は姉妹都市タスカルーサでの経験について報告します。

今回の旅の1番の目的は、8年ぶりのホストファミリーと再会することでした。高校1年生の時、人生初のホームステイはとても緊張しながら過ごしたのを未だに覚えています。英語もまともに話せず、聞かれたことに答えるだけで精一杯だった私を、やさしく受け入れてくれた最高のファミリーでした。なかなか再会する機会がなかったのですが、今回、現地の姉妹都市委員であるリサ・キーズさんに協力して頂き、帰国の1日前になんとか再会することが出来ました。時間や距離で薄れることのない強い絆を再確認しました。

もうひとつのエピソードを紹介しましょう。なんと現地のローカルテレビに飛び入りで生出演したのです！リサさんが"Good Day Tuscaloosa"という地域番組に出演するというので私も同行しました。実は8年前に訪れた時にも同じ番組でインタビューを受けたのですが、それを覚えていたリサさんが、放送前に「8年前に翔平さ

んがこの番組に出たのよ」と司会の方に伝えたところ、本番の中でもそのことが話題となり、そこで私も番組の中へ招かれたのです。

ローカルチャンネルとはいっても生放送のテレビ番組、もちろんすべて英語での番組です。とても緊張はしましたが、勇気を出してカメラの中に飛び込みました。番組では、人生を変えるほどの貴重な経験を与えてくれたタスカルーサの皆さんにしっかりと感謝の気持ちを伝えました。

詳しい旅行記は私のブログ「はぐるま」(<http://shoheihosso.blogspot.jp/>)をご覧ください。また個別に質問等がありましたら、NI-Youth(連絡先 niyouth000@gmail.com)までメールをお願いします。



report

銚子バスツアー 雪で予定変更もまた楽し。 醤油博士になった一日

毎年人気のバスツアーが催されました。今回は、1月28日、銚子と佐原を訪ねる旅です。

当日は、なんと朝から雪！ 数人のキャンセルも出ましたが、約30名が参加しました。千葉市、そして県北東部へと進むにつれ、雪は激しさを増すばかり。車窓から眺める家々も、木々も、畑も、アツという間に雪化粧。雪で道路も大渋滞。銚子へは予定を大幅にオーバー、昼過ぎにやっと到着です。



天保2年(1645)創業の老舗ヤマサ醤油見学センターには、昔、醤油作りに用いられた木製の手桶各種や、大桶、印半纏(羽織に似た仕事着)などが展示されていて、歴史を感じさせます。銚子が醤油の名産地なのは、銚子は暖流と寒流が沖で合流するので、夏涼しく冬暖かで湿度も高いため、こうじ菌など微生物の働きを活用する醤油醸造に最適だからです。

こうした醤油のウンチクや、歴史、製造法など、20分のビデオ鑑賞後は、皆、ちょっとした醤油博士になりました。

ヤマサからパックの醤油を各自お土産にいただき、その後、近くの海鮮レストランにて遅い昼食。新鮮な海の幸を堪能しました。

午後は晴れましたが犬吠崎や佐原へ回る、という当初の予定は、渋滞で時間がなくなったため、全て断念。けれども、車窓から雪景色を楽しんだり、長くバスの中になければならなかった分、いろいろな人々とたくさんおしゃべりができたり、雪のおかげで、かえって楽しい一日となりました。

